



100年先の未来に向けて 共創のはじまりと、未来のウキウキ

レゾナック・
グラフィット・ジャパンと
長野県大町市の共創

旧昭和電工の創業者、森脇昶が建設した水力発電所と水利システムを中心に、半世紀以上にもわたり深いつながりを築いてきた長野県大町市とレゾナック・グラフィット・ジャパン。現在、地域の未利用材（枝葉）のボイラーへの活用、SDGs教育での協力などの共創プロジェクトが生まれています。

1 レゾナックと地域の課題

Q 共に社会を変えてきたパートナーである大町市や長野県と、今、共創によって解決しようとしている課題は何ですか？



レゾナック・グラフィット・ジャパン「クリーンなモノづくりでエネルギー効率がよく環境にやさしい電炉法による“鉄のリサイクル”を支えるとともに、地域との共創により新しい価値を生み出したい。」

山仕事創造舎「林業にかかわる人々の高齢化を前に、今後も豊かな森林地を守っていくために、さまざまなステークホルダーの協力を得ながら、整備を続けていきたい。」

長野県大町市「少子高齢化により人口減少が進む中、持続可能な地域社会を実現するため“SDGs未来都市”として自然環境の整備や特色である水資源の魅力の発信を進めていきたい。行政と企業が協力して、地域の発展につなげていきたい。」

2 共創のはじまりと、拡大

大町事業所では黒鉛電極を製造していますが、製造時のCO₂排出量の削減が課題になっていました。そこで2022年に、木質チップを活用したボイラーの導入を検討し始めたのです。地域の未利用材の地産地消を目指して、山仕事創造舎の原田さんと地元の皆様との話し合いを重ね、燃料化のための技術的な課題解決など、徐々に提案を具体化していきました。

レゾナック・グラフィット・ジャパン
エンジニア課、SDGs推進課 **村上さん**

まずは大町を牽引する企業が山に目を向けてくれたことがうれしかったですね。村上さんは何度も山へ足を運んでくれて、こちらの実情を理解しようという姿勢で、山に捨てられていた未利用材を価値に変えることを提案してくれました。林業にはさまざまな課題がありますが、こうした柔軟な発想を持った企業と連携をしていけるのは、非常に心強く思っています。

山仕事創造舎 **原田さん**

村上の提案に刺激され、木質チップの活用だけでなく、山そのものに何か貢献ができないかと思い、森林の里親促進事業に参画しました。地域の皆さんとも説明会などを通じてコミュニケーションを深め、現在は常盤発電所近くの当社が所有する森林を中心に整備し、地域の皆さんが楽しめるような場所にするべく取り組みを進めています。

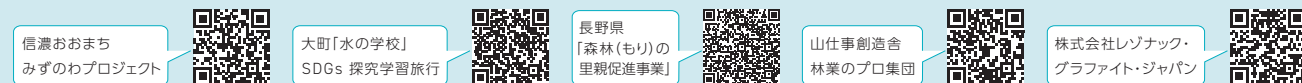
レゾナック・グラフィット・ジャパン
総務・人事課 **太田さん**

大町市は国が認定するSDGs未来都市に長野県内の市町村で初めて認定されました。レゾナックが80年近く提供してくれている水力発電と水利システムは、地域の発展に欠かせないものであり、「水」に関するSDGs探求学習旅行誘致の取り組みにおいては、青木発電所や取水場の施設見学に協力いただいています。今後も当市が進める「SDGs未来都市計画 水が生まれる信濃おおまち」の推進にご協力をお願いします。

長野県大町市 総務部 企画財政課 **阪井さん**

レゾナックの事業用の発電用水と農業用水が共用する水利システムはとても珍しいと思っています。全国的に地方では少子高齢化が進み、農業人口も減少している中、農業者がこうした水利システムを維持していくのはとても難しいので、支えてくれているのはとても有難いのですが、今後どうなるのか気にしているところです。また、地域としての魅力を高めるためにも、今回のような人と人とのつながり、地域にある水利施設の魅力を発信させる取り組みが広がっていくことは、とても大切なことだと思います。

長野県 北アルプス地域振興局 農地整備課 **岡本さん**
長野県 北アルプス地域振興局 林務課 **太目さん**



信濃おおまち
みずのわプロジェクト

大町「水の学校」
SDGs 探究学習旅行

長野県
「森林(もりの)
里親促進事業」

山仕事創造舎
林業のプロ集団

株式会社レゾナック・
グラフィット・ジャパン

レゾナック・グラフィット・ジャパン 共創のポイント

- 調査に際して、実際に山に赴き、現地の実情を目の当たりにしながら未利用材活用の提案を組み立てていった点。共創のパートナーと同じ目線に立ち、ともに理解を深めていったからこそ、すべてのステークホルダーにとって意味のあるサステナブルな取り組みを生み出せた。
- 現場から生まれたアイデアを尊重し、SDGs推進課を立ち上げ、上司の後押しの下、事業所内でサポートしていった点。オープンに意見を言い合える環境ができたことで、さらなるアイデアが生まれ、地域との共創による社会課題解決に近づくことができた。

共創ウキウキはここでも発揮!

社会を変える半導体材料

半導体の高性能化、高機能化が進んでいます。急拡大している生成AIをはじめとし、物流やスマート農業、需要予測、金融/保険、オフィスワーク、自動運転、ショッピング、美容など、私たちの暮らしは劇的に変化を遂げつつあります。そこに不可欠なのが半導体“材料”。後工程材料を中心に高いシェアを持つ私たちは、パッケージソリューションセンターやJOINT2に代表される共創活動にも取り組み、シリコンバレーでのUS-JOINTもスタートしました。半導体のあるところすべて、あらゆるシーンで私たちは「化学の力で社会を変える」を実現し、人々の幸せと豊かさに貢献します。

3 共創のこれから



レゾナック・グラフィット・ジャパン「地域の森林資源を活用した木質チップボイラー利用にとどまらず、地域の方々と共に地域の森林緑地を保全する取り組みを進めるなどの共創の場をつくり、大町の誇るべき水利システムとともにその取り組みを世界中に発信していきたい。また、次世代を担う若者との交流を増やし、彼らが行動を起こす支援をしたいです。」

山仕事創造舎「木材の生産以外の森林の多面的機能を確保することへも応援してもらい、強く豊かな森づくりを続けたい。この地域のどこを見渡しても素晴らしい森が人を癒してくれる、そんな景色を妄想しています。」

長野県大町市「産学官金連携の“信濃おおまち みずのわプロジェクト”を立ち上げ、水を起点としたまちづくりをスタートしています。さまざまなパートナーの皆様と意見交換する場をつくり、共に100年後の未来をつくっていききたいです。」